

## 2021年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

Q: 第4四半期の営業利益予想は約40億円であるが、第3四半期の営業利益、約50億円と比べると保守的に見える。これは欧州のロックダウンや半導体不足の問題等の下振れリスクを織り込んでいるためか？

A: 第4四半期はある程度保守的に予想しています。欧州でも、ロックダウンで工場の生産が止まるようなことにはなっていませんが、販売店の休業で自動車市場に影響が出る可能性等を考慮しています。

Q: 高機能ガラス事業の第3四半期の業績は好調だったが、今後も継続するとみているか？

A: 高機能ガラス事業の製品うち半分程度が自動車関連製品であり、これらの需要は自動車生産動向に連動した回復を想定しています。プリンター用レンズは在宅勤務による家庭用プリンター向けの需要の増加が続くとみえます。また、ファインガラス事業についても需要は伸びると見込んでいます。

Q: 建築ガラス事業について、他地域と比べるとアジアの回復が遅いように見える。日本では他社の事業統合に係る協議中止の発表があったが、NSGグループの事業と戦略に与える影響について教えてほしい。

A: 当社は昨年、千葉とマレーシアにある窯の生産休止を決定し、低採算事業から撤退をするなどの施策を行ってきました。今後とも、自社として行うべき取り組みを実施していく方針です。

Q: 緊急コスト削減プロジェクトの実施により、第3四半期累計で前年対比約200億円の削減を達成したとのことだが、決算説明資料(P7)の営業利益差異分析のどの項目に表れているか。また、通期のコスト削減目標はいくらか。

A: 決算説明資料(P7)の営業利益差異項目の「コストダウンその他」に主に含まれており、販売数量の減少による悪化影響を軽減しています。通期で200億円を超えるコスト削減目標を立てており、第3四半期でほぼ目標額を達成してはいますが、今後も引き続きコスト削減活動を行っていきます。

Q: 事業構造改革関連費用の影響を資産・事業売却等により軽減するとしているが、悪化影響を全てカバーできるほどの規模の資産・事業売却ができるのか。また、合計2,000人規模の人員削減を実施することだが、今期中に実施できるのか。

A: 資産・事業売却については相手のある話であり、金額規模やタイミングが確定しておらず、詳細は現時点では公表できませんが、事業構造改革関連費用の悪化影響を出来る限り軽減できるように、施策を進めています。また、人員削減は計画通り推進しており、今期中に費用計上したいと考えています。

Q: 事業構造改革の実施により、来期に3桁億円のコスト改善効果を創出するとしているが、来期の営業利益と当期利益はどの程度になるか？

A: 人員削減や生産・購買コストの削減等を実施し、来期には営業利益で3桁億円、当期利益で黒字化を目指しています。

Q: 今後、成長が期待できる分野はどのような分野になるか。低誘電ガラスなど5G関連製品の開発は行っているのか。

A: 戦略投資として太陽電池パネル用ガラス製造用のフロート窯に投資をしましたが、ベトナムの新窯は2020年1月に、北米の新窯も2020年11月に稼働を開始しましたので、来期の利益改善に繋げていきたいと考えています。また、5G関連製品としては、ガラス繊維製品のひとつであるガラスフレークを低誘電の部品向けに活用していきたいと考えており、開発・事業化を進めています。